

第1節 海ごみ削減プロジェクト

1 背景と目的

海ごみは、景観の悪化による観光への悪影響やごみの混在による漁業資源への悪影響のほか、ごみから浸出する汚染物質による水環境の悪化や野生生物の誤摂取や植物の光合成の阻害などによる生態系への被害など、経済的な分野に止まらず自然環境を保全する上でも、さらには廃棄物の不法投棄も絡み重大な社会問題となっています。本市においても重要な環境課題の一つであり、特に江田島湾においては多くの漂着ごみが確認されています。

そこで、関係者（市・市民・事業者）が協働して、海ごみ（漂着ごみ、漂流ごみ、海底ごみ）の削減対策を推進し、本市の恵まれた海洋資源を保全します。

2 内容

◎ 海ごみの現状把握

海ごみには、漂着ごみ、漂流ごみ、海底ごみがあり、近年、牡蠣筏の資材による漂着ごみや漂流ごみが問題となっています。これらの実態を海ごみの種類ごと、地域ごとに把握し、効率的・効果的な削減方法を検討します。

◎ 漂着ごみ対策の推進

漂着ごみは、海岸に打ち揚げられるものであり、市民等による回収が可能であるため、関係者（市・市民・事業者）が協働して、海岸清掃活動を推進します。



【海岸清掃活動】

◎ 漂流ごみ、海底ごみ対策の推進

漂流ごみ、海底ごみは、市民による回収は困難であるため、行政・事業者が協働して、回収活動を推進します。

◎ ごみのポイ捨て防止の啓発活動

海ごみの発生を未然に防止するため、ごみのポイ捨て防止の啓発活動を強化します。また、関係者（市・市民・事業者）協働による海岸のパトロールを徹底します。

3 期待される効果

- 海ごみの削減による快適な海辺環境の保全
- 海ごみの削減による良好な漁場環境の保全
- 関係者（市・市民・事業者）の協働作業による地域コミュニティの確保

コラム【海洋ごみの削減について】

●瀬戸内海の家ごみ●

(社)瀬戸内海環境保全協会等によるアンケート結果によると、瀬戸内海の家ごみは不法投棄やポイ捨て、台風・大雨後の自然系ごみ、カキ養殖筏のフロートやパイプ漂着などが多いとの結果が出ています。



●瀬戸内海における海洋ごみ削減に向けた提言●

(社)瀬戸内海環境保全協会等では、次の観点から整理し、海洋ごみ削減に向けた提言をまとめています。

◆取組の方向性

- 瀬戸内海の家ごみ削減は、流入量の抑制と回収努力の促進を陸域及び海域において併用し行うことが必要

◆陸域における対策

- 陸域での日常生活におけるごみ発生量の抑制
- 発生者探しではなく発生行為の排除方法の検討
- 河川・海域に入る前の陸域でのごみ回収が重要
- 陸域から海洋への流入量を効率的に削減するためには、ごみが集約される場所(堰・河口など)での「定期的」回収が有効(重点回収)

◆海域における対策

- 海域由来の各発生源について削減対策を実施
- 海岸漂着ごみは一部の海岸に高密度に偏在しているため、重点的に回収し効率的に現存量を削減(重点地点回収)
- 海岸漂着ごみ量の時間変動を把握して、漂着量が多い時期に集中して実施(漂着期重点回収)
- 市民の“意識と行動の変化”を促すための市民参加型のモニタリング・回収が必要
- 海底ごみの回収の推進には、回収物の処分に対する支援制度が有効

◆行政の果たすべき役割

- 瀬戸内海全体を俯瞰する高い視点と広い視野を持つ(全体的視点)
- 海域全体で継続的に協力するための調整や仕組み作り
- 外海への流出もあり、内海の家ごみという視点を踏まえた施策展開